

平成26年度 歯科と生活習慣病対策に関する調査報告書

平成27年2月

北九州市保健福祉局健康推進課 口腔保健支援センター

一般社団法人北九州市歯科医師会

目 次

第1章 調査の概要	
1. 趣旨	1
2. 調査方法	1
3. 調査対象	1
4. 調査期日	1
5. 回収状況	1
6. 調査機関	2
7. 集計分析上の注意事項	2
8. 対象の属性	2
第2章 調査結果	
1. 糖尿病について	3
2. 糖尿病－歯周病の医科歯科連携を進めるにあたって	5
3. 今後の医科歯科連携について	6
4. 自由意見	6
第3章 考察	8
資料1 クロス集計	10
資料2 調査に使用した調査票	13

第1章 調査の概要

1. 趣 旨

摂取脂肪量の増加を特徴とした食生活の変化や車の保有台数の増加に伴う運動量の低下に伴い、日本でも糖尿病患者が急増している。平成24年の国民健康・栄養調査において、糖尿病が強く疑われる人（HbA1c(NGSP) \geq 6.5）の数は、約950万人であり、糖尿病の可能性を否定しえない人（6.5 > HbA1c(NGSP) \geq 6.0）を加えると、その数は2,000万人を越える。一方、歯周病の罹患率は依然として高く、成人の80%は歯肉に何らかの異常を有している（平成23年歯科疾患実態調査）。厚生労働省・日本歯科医師会が平成元年より開始した8020運動（80歳になっても20本以上自分の歯を残す）が功を奏し、高齢者においても多くの歯が保存されるようになったものの、残された歯が歯周病に罹患しているということも明らかになった。

糖尿病患者の多くが歯周病に罹患していることが、多くの疫学研究より明らかにされ、歯周病が糖尿病の6番目の合併症であることが認知されるようになってきた。また、歯周病という口腔内局所の慢性炎症が肥満とあいまって、全身の炎症を増幅し、インスリン抵抗性を惹起することにより、糖尿病の悪化や合併症の発症に関与することが明らかとなっている。すなわち、糖尿病と歯周病は双方向性であり、密接な相互関係にある。さらに、歯周病治療が糖尿病の血糖コントロールを改善するという臨床研究報告も散見され、歯周病治療が糖尿病治療の一助となる可能性が示唆される。したがって、糖尿病・歯周病の両者を発症している患者では、医科歯科連携し、歯周病の改善を図る必要がある。

そこで、北九州市における糖尿病・歯周病に関する医科歯科連携の現状把握を目的として、「糖尿病と歯周病についてのアンケート」を実施した。

2. 調査方法

アンケート票郵送による自記式調査とし、FAX、郵送による返信での回収。

3. 調査対象

一般社団法人北九州市歯科医師会会員診療所 549人

4. 調査期日

平成26年7月1日～平成26年8月9日

5. 回収状況

回収数：338（回収率61.6%）

区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	計
対象数	58	138	90	40	38	149	36	549
回収数	53	55	38	35	38	87	32	338
回収率	91.4%	39.9%	42.2%	87.5%	100.0%	58.4%	88.9%	61.6%

6. 調査機関

調査主体：北九州市保健福祉局地域支援部健康推進課

集計・分析：一般社団法人北九州市歯科医師会

7. 集計分析上の注意事項

- ・ サンプル数は「N」で標記しています。
- ・ 集計値は原則として回答数の合計を100とした場合の構成比で、小数点第2位以下を四捨五入した値で示しています。このため、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答（2つ以上の選択肢を回答）は原則として100%を超えます。

8. 対象の属性

【歯科医師としての経験年数（平成26年7月1日現在）】

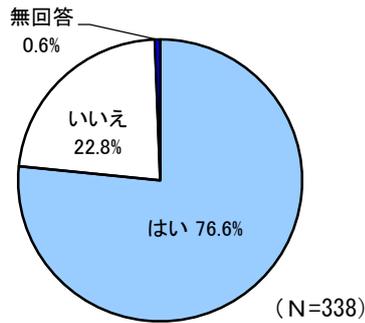
年	～19年	20～29年	30～39年	40年～	計
人	57	117	110	49	338
%	16.9%	34.6%	32.5%	14.5%	

第2章 調査結果

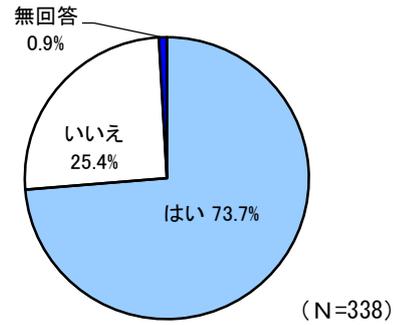
1. 糖尿病について

(1) 糖尿病に関する知識

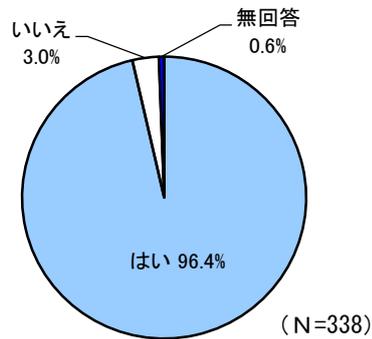
質問3 空腹時の血糖値の正常値を知っていますか。



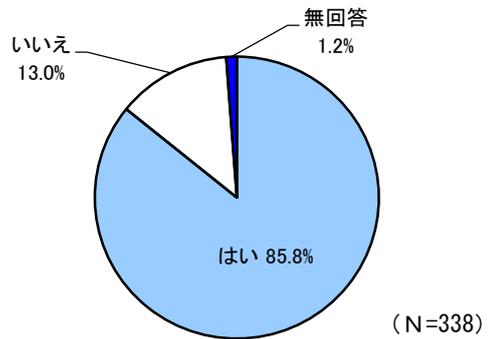
質問4 HbA1cの正常値を知っていますか。



質問5 糖尿病と歯周病が疾病の改善や悪化について双方向に影響することを知っていますか。

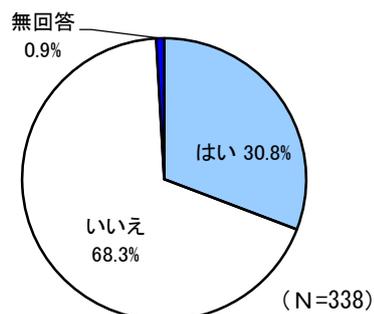


質問6 糖尿病に罹っている患者さんを治療していて治癒が悪いと感じたことがありますか。

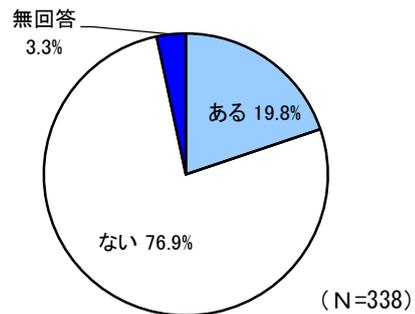


(2) 歯周病を有する糖尿病患者の治療（医科歯科連携）について

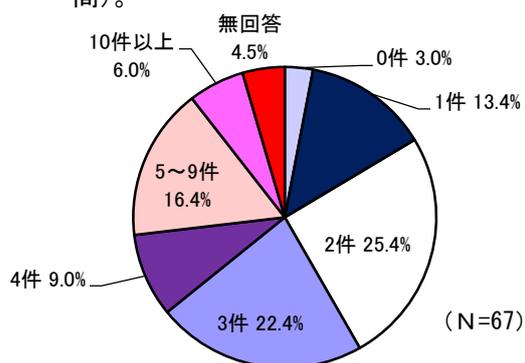
質問7 これまで(あるいは現在)、医科の先生と連絡をとって治療している糖尿病(歯周病)患者はいますか。



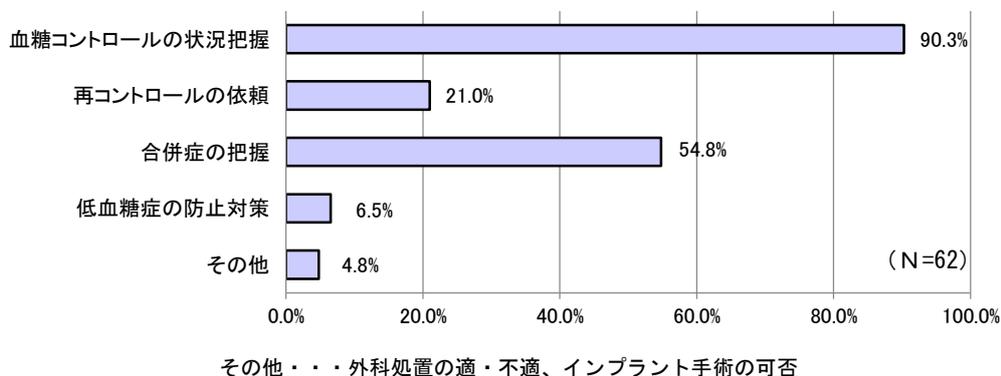
質問8 過去1年間(平成25年7月～平成26年6月)に、歯周病患者の糖尿病について医科へ照会したことがありますか。(照会状の有無は問わない)



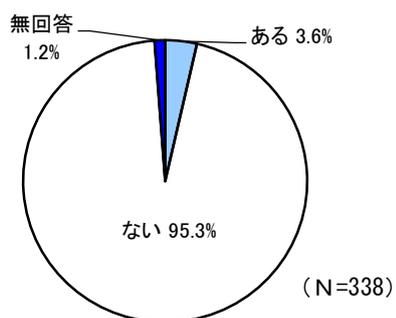
質問8-1 照会した件数は何件ですか
(平成25年7月～平成26年6月の1年間)。



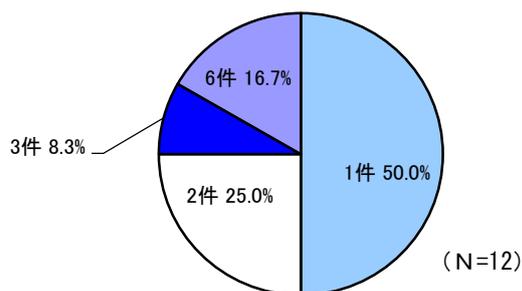
質問8-2 照会の目的は(複数回答可)。(N=62)



質問9 問8とは逆に、過去1年間(平成25年7月～平成26年6月)に、医科から糖尿病患者の歯周病治療について照会がありましたか。(照会状の有無は問わない)

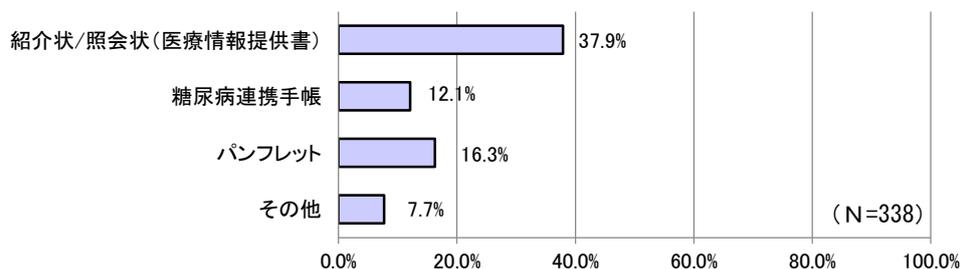


質問9-1 照会があった件数は何件ですか(平成25年7月～平成26年6月の1年間)。



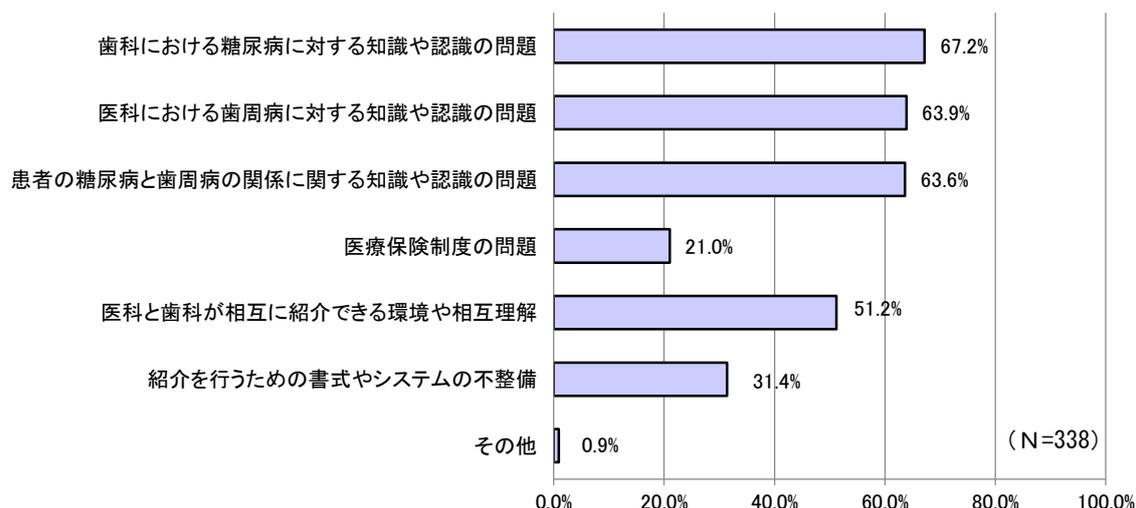
2. 糖尿病—歯周病の医科歯科連携を進めるにあたって

質問10 糖尿病(歯周病)患者を治療するにあたって、現在使用しているツールがありますか(複数回答可)。

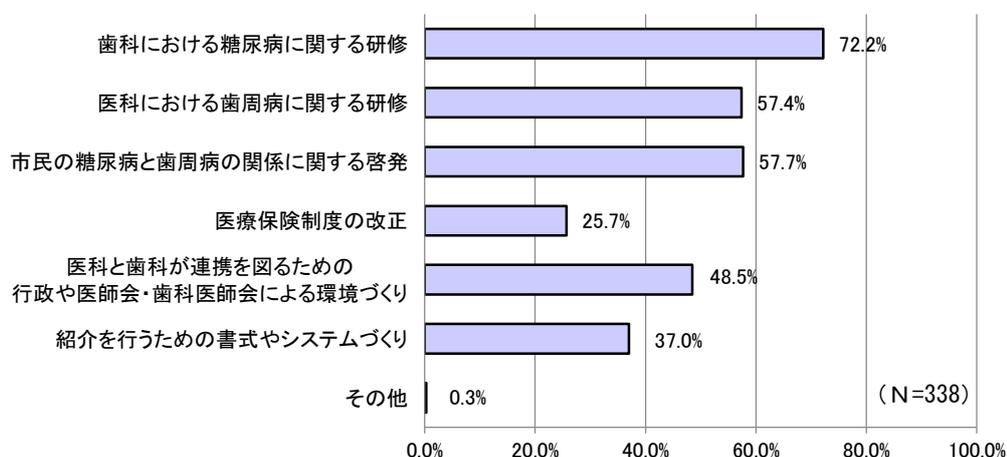


その他・・・(公社)日本糖尿病協会雑誌「さかえ」、自院作成資料、患者用の歯周病の本、医科での患者データ、新聞記事、患者のお薬手帳、血液検査データ

質問11 糖尿病歯周病に関する医科歯科連携を進めるにあたっての課題は何だと思いますか(複数回答可)。

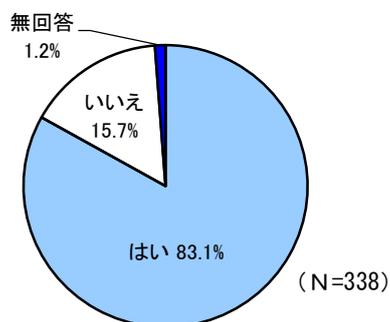


質問12 糖尿病と歯周病に関する医科歯科連携を進めるために必要と思うものをお答えください(複数回答可)。

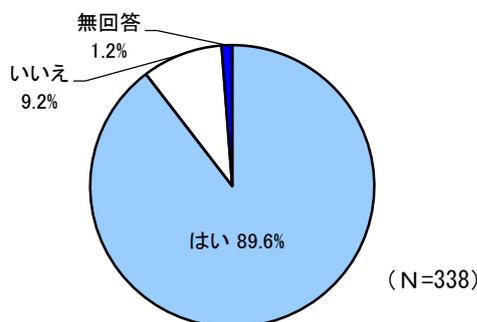


3. 今後の医科歯科連携について

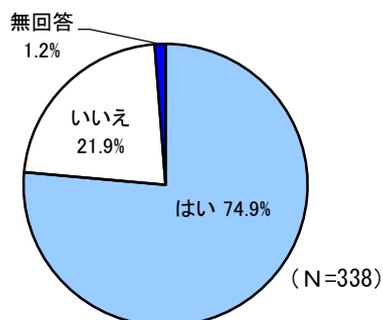
質問13 医科から糖尿病患者の歯周病治療の依頼があった場合、自院で対応しますか。



質問14 上記の場合に対応できるように研修会を開催した場合、出席されますか。



質問15 医科へ提供する(仮)糖尿病と歯周病・連携協力医院リストに参加されますか。



4. 自由意見

質問16 その他、ご意見があればご自由にお書きください。

- ・ 我々歯科医師も勉強不足だが、医師も歯周病や歯科に関して、知識が不足、関心不足なのではないだろうか。そのように思えるので連携がうまくいっていないのでは。
- ・ 以前より医科の先生の糖尿病と歯周病の相関に対する理解度は上がったように思うがまだまだです。私達ももっと勉強するので医科の先生もP（歯周病）について勉強して欲しい。
- ・ 医科から歯周治療の依頼があったことはない。医師が必要を感じていないのは？ビスホスホネートも処方前に歯科治療依頼はウチは0件です。
- ・ DM（糖尿病）だけでなく、他科の内科系疾患の歯科医の理解不足の人が多いのではないでしょうか？これからの歯科医は血液検査データも読めなくてははいけません、細菌学（ウイルス）、解剖学なども
- ・ 歯科医師と医師（糖尿病専門医でない）とが互いに研修を重ねてお互いに連携の重要性を認識することが先決である。
- ・ 質問15が何の意味かわからない。そのようなものはどの歯科医院でも行わなければならない、また現在でも行われているのでは？
- ・ 日本糖尿病協会の登録歯科医になり6年経過しますが、特に医科歯科の連携はほとんどないと言える。

- 確かに糖尿病の患者さんは歯周病の治療が悪いことは常に感じています。研修会等があれば積極的に参加してみたいです。
- 特に、歯科における糖尿病に関する研修と医科における歯周病に関する研修が重要だと思う。
- （日本糖尿病協会）登録医に必要な研修会が近くでの開催が少なすぎる
- ほとんどの患者さんがコントロールされているので、あまり問題ではないような気がします。
- 抜歯をする場合のHbA1cの値を明確にしてほしい
- 患者教育はしているが、一般に歯周病と糖尿病の関係を周知できればよいと思う。
- 多くの歯科医は歯周病を完治させることは困難ではないでしょうか。今の状態で医科歯科連携をすすめても患者さんのためになるかどうか疑問です。
- 歯科医師としてリタイアする時期なので意欲が無い。
- 書式等のシステム作りを早く行う。その際、情報提供料の算定を行えるようにする。

第3章 考察

本調査は、平成26年7月～8月に一般社団法人北九州市歯科医師会に登録された歯科診療所に対して行なわれた。その回答率は約62%であり、今まで歯科医師会にて行なわれてきたアンケートとほぼ同様の回答率であった。

歯科医師の糖尿病に関する知識について、質問3、4において、空腹時血糖値並びにHbA1c値の正常値の認知度を調査した。その結果、空腹時血糖値の正常値については77%、HbA1c値の正常値については75%の認知度（自己申告による）であった。空腹時血糖値、並びにHbA1c値はともに、糖尿病の病態を把握するには必要不可欠な値であり、ここ数年、歯科医師国家試験において頻出して出題されていることから考えると、多少低い値ではないかと考えられる。北九州市は政令指定都市の中で、最も高齢化がすすんでいる市であり、糖尿病を有した高齢者が増加していくことが予想される。今後、研修会・勉強会などを通して、その正常値を周知し、歯科側のレベルの均一化を図ることが必要であると思われる。歯周病と糖尿病の双方向性（質問5）については、ほとんどの歯科医師が理解しており（97%）、歯周病・糖尿病の深い相互関係については周知されていた。また、日常の臨床において、糖尿病に罹患している患者では術後の治癒が悪いことを実感として持っており（87%）、糖尿病の歯科治療（特に外科的な）に対する影響については理解されているものと考えられる。

糖尿病を有する歯周病患者の治療にあたって、医科と連絡をとって治療している患者がいるかという質問（質問7）に対しては31%が、過去1年間に、歯周病患者の糖尿病について医科へ照会したことがあるかという質問（質問8）に関しては、20%のみがあると回答している。医科への照会の目的としては、血糖コントロールの状況把握（82%）、合併症の把握（50%）、再コントロールの依頼（19%）、低血糖防止対策（6%）の順番であった。血糖コントロールの状態の把握は、血糖値やHbA1c値を患者から聴取することにより知ることができるので、必ずしも医科への連絡が必須であるとは言えないが、北九州市において歯科から医科へ糖尿病に関しての情報提供依頼があまりなされることなく、糖尿病患者の歯周病治療を行なっていることが明らかとなった。一方、過去1年間に、医科から糖尿病患者の歯周病治療についての照会があったかの質問（質問9）については、あると回答したものは4%のみであった。歯科から医科への患者情報の照会がなされていない以上に、医科から歯科への患者情報照会はなされていなかった。これは、医科側において、歯周病治療が糖尿病の血糖コントロールに及ぼす効果が未だに十分に周知されていないことが考えられる。この問題を解決するためには、歯周病治療が糖尿病改善に効果的であるという良質のエビデンスを確立し、医科側に理解してもらう必要があると考えられる。

糖尿病—歯周病の医科歯科連携について、糖尿病（歯周病）患者を治療するにあたって現在使用しているツールは、紹介状／照会状（医療情報提供書）（63%）、パンフレット（28%）、糖尿病連携手帳（20%）であった（質問10）。糖尿病医や他の医療関係者の間で、検査データなどの情報を共有するための作製された糖尿病連携手帳の使用率が低い理由として、歯周病検査結果を記入する欄に、検査日、施設、歯周病の程度（なし、軽度、中等度、重度）、次回受診のみの項目しかなく、情報提供を行なうには不十分である可能性が示唆される。また、糖尿病と歯周病に関する医科歯科連携を進めるにあたっての課題としては、歯科における糖尿病に対する知識や認識の問題（68%）、医科における歯周病に対する知識や認識の問題（65%）、患者の糖尿病と歯周病の関係に対する知識や認識の問題（65%）が多く挙げられ、次いで、医科と歯科が相互に紹介できる環境や相互理解（52%）、紹介を行なうための書式やシステムの不整備（32%）、医療保険制度の問題（21%）

であった（質問11）。多くの歯科診療施設が、医科・歯科・患者、三者それぞれが、糖尿病・歯周病について深く知ることが医科歯科連携には必要であると考えていることが明らかとなった。また、この医科歯科連携を進めるためには、歯科における糖尿病に関する研修（73%）、医科における歯周病に関する研修（58%）、市民の糖尿病と歯周病の関係に関する啓発（59%）が必要だと考えており、次いで、医科と歯科が連携を図るための行政や医師会・歯科医師会による環境づくり（50%）、紹介を行なうための書式やシステムづくり（37%）、医療保険制度の改正（26%）であった（質問12）。質問11と同様に、糖尿病一歯周病の医科歯科連携には、医科・歯科・患者の三者の相互理解が必要であると考えられていた。

今後、歯周病を有する糖尿病患者治療に関しての協力の可否を医科から糖尿病患者の歯周治療の依頼があった場合、自院で対応しますか（質問13）、上記の場合に対応できるように研修会を開催した場合、出席されますか（質問14）、医科へ提供する（仮）糖尿病と歯周病・連携協力リストに参加されますか（質問15）について質問した所、それぞれ、84%、91%、77%の歯科診療所が「はい」と回答した。アンケートに回答いただいた約8割の歯科診療所（約270）において、今後、医科歯科連携に基づく糖尿病を有する患者の歯周病治療に協力する意志があることがわかった。

糖尿病に関する知識と医科歯科連携実績並びに将来的に医科歯科連携を希望するかなどの質問の相関をみるために、質問3、4に対して、質問6～9、13～15とのクロス集計を行なった（巻末資料1）。質問3、4の糖尿病に関する知識（空腹時血糖値の正常値、HbA1c値の正常値）を有していると回答したものは、知らないと回答した者に比べ、過去の医科歯科連携実績が高く、また、将来的にも医科歯科連携を希望していることが明らかとなった。次に、歯科医師経験年数と各質問に対する回答との相関を調べるために、経験年数を、1～19年、20～29年、30～39年、40年以上の4群にわけ、質問3～9までの回答を比較した所、経験年数による隔たりはみられなかった。

現在、北九州市の高齢化率は27.2%（全国平均：25.0% 福岡市：21.0%）である。60歳以上の6人に1人は糖尿病であると言われ、糖尿病患者の割合は高齢者ほど高くなることから、北九州市においてもその数は多数であると考えられる。また、高齢者の約半数が4mm以上の歯周ポケットを有すると報告されている（平成23年歯科疾患実態調査）。すなわち、北九州市における歯科診療において、糖尿病を有する患者に歯科（歯周病）治療を行なう頻度は高いことが示唆される。今回のアンケート結果では、医科歯科連携があまり活発に行なわれていないことが明らかとなったが、より良質な歯科医療を患者に提供するには、医科歯科連携は必須である。アンケートにもあるように、行政・医師会・歯科医師会が協力し、歯科における糖尿病に関する研修、医科における歯周病に関する研修、市民の糖尿病と歯周病の関係に関する啓発に取り組むことが重要であると思われる。

資料 1 クロス集計結果

1. (質問 3) 空腹時血糖値正常値の認知度に対するクロス集計結果

【(質問 4) HbA1c の認知度】

		N	構成比 (%)		
			知っている	知らない	無回答
全体		338	73.7	25.4	0.9
認知度	知っている	259	90.0	9.7	0.4
	知らない	77	20.8	79.2	0.0
	無回答	2	0.0	0.0	100.0

【(質問 6) 糖尿病患者の治療の印象】

		N	構成比 (%)		
			治癒が悪いと感じたことがある	治癒が悪いと感じたことはない	無回答
全体		338	85.8	13.0	1.2
認知度	知っている	259	90.3	9.3	0.4
	知らない	77	72.7	24.7	2.6
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

【(質問 7) 医科の先生と連絡をとって治療している糖尿病患者の有無】

		N	構成比 (%)		
			いる	いない	無回答
全体		338	30.8	68.3	0.9
認知度	知っている	259	35.9	63.7	0.4
	知らない	77	14.3	84.4	1.3
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

【(質問 8) 過去 1 年間に歯周病患者の糖尿病について医科への照会の有無】

		N	構成比 (%)		
			有	無	無回答
全体		338	19.8	76.9	3.3
認知度	知っている	259	23.6	74.5	1.9
	知らない	77	7.8	85.7	6.5
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

【(質問 9) 過去 1 年間に糖尿病患者の歯周病について医科からの照会の有無】

		N	構成比 (%)		
			有	無	無回答
全体		338	3.6	95.3	1.2
認知度	知っている	259	4.6	94.2	1.2
	知らない	77	0.0	100.0	0.0
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

【(質問 13) 医科から糖尿病患者の歯周病治療の依頼があった場合の対応】

		N	構成比 (%)		
			対応する	対応しない	無回答
全体		338	83.1	15.7	1.2
認知度	知っている	259	87.3	12.0	0.8
	知らない	77	71.4	27.3	1.3
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

【(質問 14) 研修会への参加意向】

		N	構成比 (%)		
			参加する	参加しない	無回答
全体		338	89.6	9.2	1.2
認知度	知っている	259	91.9	6.9	1.2
	知らない	77	84.4	15.6	0.0
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

【(質問 15) (仮) 糖尿病と歯周病・連携協力医院リストへの参加意向】

		N	構成比 (%)		
			参加する	参加しない	無回答
全体		338	74.9	21.9	3.0
認知度	知っている	259	78.4	19.3	2.3
	知らない	77	64.9	29.9	5.2
	無回答	2	0.0	50.0	50.0

2. (質問 4) HbA1c 正常値の認知度に対するクロス集計結果

【(質問 6) 糖尿病患者の治療の印象】

		N	構成比 (%)		
			治療が悪いと感じたことがある	治療が悪いと感じたことはない	無回答
全体		338	85.8	13.0	1.2
認知度	知っている	249	91.2	8.0	0.8
	知らない	86	73.3	25.6	1.2
	無回答	3	0.0	66.7	33.3

【(質問 7) 医科の先生と連絡をとって治療している糖尿病患者の有無】

		N	構成比 (%)		
			いる	いない	無回答
全体		338	30.8	68.3	0.9
認知度	知っている	249	39.0	61.0	0.0
	知らない	86	8.1	89.5	2.3
	無回答	3	0.0	66.7	33.3

【(質問 8) 過去 1 年間に歯周病患者の糖尿病について医科への照会の有無】

		N	構成比 (%)		
			有	無	無回答
全体		338	19.8	76.9	3.3
認知度	知っている	249	26.1	73.1	0.8
	知らない	86	2.3	88.4	9.3
	無回答	3	0.0	66.7	33.3

【(質問 9) 過去 1 年間に糖尿病患者の歯周病について医科からの照会の有無】

		N	構成比 (%)		
			有	無	無回答
全体		338	3.6	95.3	1.2
認知度	知っている	249	4.8	94.0	1.2
	知らない	86	0.0	100.0	0.0
	無回答	3	0.0	66.7	33.3

【(質問 13) 医科から糖尿病患者の歯周病治療の依頼があった場合の対応】

		N	構成比 (%)		
			対応する	対応しない	無回答
全体		338	83.1	15.7	1.2
認知度	知っている	249	89.2	10.0	0.8
	知らない	86	68.6	30.2	1.2
	無回答	3	0.0	66.7	33.3

【(質問 14) 研修会への参加意向】

		N	構成比 (%)		
			参加する	参加しない	無回答
全体		338	89.6	9.2	1.2
認知度	知っている	249	93.2	5.6	1.2
	知らない	86	81.4	18.6	0.0
	無回答	3	33.3	33.3	33.3

【(質問 15) (仮) 糖尿病と歯周病・連携協力医院リストへの参加意向】

		N	構成比 (%)		
			参加する	参加しない	無回答
全体		338	74.9	21.9	3.0
認知度	知っている	249	80.3	17.7	2.0
	知らない	86	61.6	33.7	4.7
	無回答	3	0.0	33.3	66.7

糖尿病と歯周病についてのアンケート

～ ご協力のお願い ～

歯周病は糖尿病の6番目の合併症とされ、歯周病は糖尿病患者の血糖のコントロールを妨げ、合併症の発症を助長するといわれています。

このように歯周病と糖尿病は密接な関係にあり、糖尿病患者やその予備群にとって歯周病のコントロールは大変重要であることから、医科と歯科の連携による糖尿病を中心とした生活習慣病対策が求められています。

つきましては、本会では歯科と生活習慣病対策の普及・促進を図るための基礎資料とするために、歯科医療機関での状況について調査をさせていただくことになりました。

本調査は北九州市からの委託を受けて実施するもので、本会の会員の歯科医療機関すべてに調査票を送らせていただいております。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、是非、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

一般社団法人北九州市歯科医師会
会長 山地直樹

※ 調査に当たって

調査にご協力いただきました回答者及び歯科医療機関を特定できる情報を公表することは絶対ではありません。

また、ご回答いただいた内容については、統計的な処理を行いますので、回答者や歯科医療機関が連想されることはありませんし、上記の調査目的以外には一切使用いたしません。

※ ご回答に当たって

1. ご回答は、できるだけ貴診療所の管理者にお願いいたします。
2. ご回答は、「回答用紙」に記載してください。
3. 調査票の中で、特定の日を基準として回答する質問は、平成26年7月1日現在の状況をお答えください。
4. ご回答は各質問にそって、あてはまるアルファベットを○で囲んでください。回答用紙に「複数回答可」と記載のある質問は、○をいくつつけてもかまいません。何も記載のない質問は、1つだけ選んでください。
5. 質問が多く大変ご苦勞をおかけしますが、最後に記入漏れがないかご確認をお願いいたします。

※ 調査票の返信について

ご記入いただいた調査票は、所属の区歯科医師会事務所に平成26年8月9日（土）までにFAX又は持参によりご提出ください。

※ お問い合わせやご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

連絡先：一般社団法人北九州市歯科医師会
住 所：北九州市小倉北区馬借1-7-1
電 話：093-513-3650

糖尿病と歯周病についてのアンケート 【質問】

回答は、右の【回答用紙】に記入してください。

【貴歯科診療所とご回答される方について】

1. 貴歯科診療所の所在地についてお答えください。
2. あなたの歯科医師としての経験年数（平成26年7月1日現在）をお答えください（1年未満は切り捨て）。

【糖尿病について】

3. 空腹時の血糖値の正常値を知っていますか。
4. HbA1cの正常値を知っていますか。
5. 糖尿病と歯周病が疾病の改善や悪化について双方向に影響することを知っていますか。
6. 糖尿病に罹っている患者さんを治療していて治癒が悪いと感じたことがありますか。
7. これまで（あるいは現在）、医科の先生と連絡をとって治療している糖尿病（歯周病）患者はいますか。
8. 過去1年間（平成25年7月～平成26年6月）に、歯周病患者の糖尿病について医科へ照会したことがありますか。（照会状の有無は問わない）
 - 8-1 照会した件数は何件ですか（平成25年7月～平成26年6月の1年間）。
 - 8-2 照会の目的は。
9. 問8とは逆に、過去1年間（平成25年7月～平成26年6月）に、医科から糖尿病患者の歯周病治療について照会がありましたか。（照会状の有無は問わない）
 - 9-1 照会があった件数は何件ですか（平成25年7月～平成26年6月の1年間）。

【糖尿病 - 歯周病の医科歯科連携を進めるにあたって】

10. 糖尿病（歯周病）患者を治療するにあたって、現在使用しているツールがありますか。
11. 糖尿病と歯周病に関する医科歯科連携を進めるにあたっての課題は何だと思えますか。
12. 糖尿病と歯周病に関する医科歯科連携を進めるために必要と思うものをお答えください。

【今後の医科歯科連携について】

13. 医科から糖尿病患者の歯周病治療の依頼があった場合、自院で対応しますか。
14. 上記の場合に対応できるように研修会を開催した場合、出席されますか。
15. 医科へ提供する（仮）糖尿病と歯周病・連携協力医院リストに参加されますか。

【自由意見】

16. その他、ご意見があればご自由にお書きください。

糖尿病と歯周病についてのアンケート 【回答用紙】

番 号	回 答 欄
1	a. 門司区 b. 小倉北区 c. 小倉南区 d. 若松区 e. 八幡東区 f. 八幡西区 g. 戸畑区
2	_____ 年 (平成26年7月1日現在)
3	a. はい b. いいえ
4	a. はい b. いいえ
5	a. はい b. いいえ
6	a. はい b. いいえ
7	a. はい b. いいえ
8	a. ある → 問8-1、2へ b. ない
8-1	_____ 件 (平成25年7月～平成26年6月の1年間)
8-2 (複数回答可)	a. 血糖コントロールの状況把握 b. 再コントロールの依頼 c. 合併症の把握 d. 低血糖症の防止対策 e. その他 (_____)
9	a. ある → 問9-1へ b. ない
9-1	_____ 件 (平成25年7月～平成26年6月の1年間)
10 (複数回答可)	a. 紹介状／照会状 (医療情報提供書) b. 糖尿病連携手帳 c. パンフレット d. その他 (_____)
11 (複数回答可)	a. 歯科における糖尿病に対する知識や認識の問題 b. 医科における歯周病に対する知識や認識の問題 c. 患者の糖尿病と歯周病の関係に関する知識や認識の問題 d. 医療保険制度の問題 e. 医科と歯科が相互に紹介できる環境や相互理解 f. 紹介を行うための書式やシステムの不整備 g. その他 (_____)
12 (複数回答可)	a. 歯科における糖尿病に関する研修 b. 医科における歯周病に関する研修 c. 市民の糖尿病と歯周病の関係に関する啓発 d. 医療保険制度の改正 e. 医科と歯科が連携を図るための行政や医師会・歯科医師会による環境づくり f. 紹介を行うための書式やシステムづくり g. その他 (_____)
13	a. はい b. いいえ
14	a. はい b. いいえ
15	a. はい b. いいえ
16	

ご協力ありがとうございました。

平成26年度
歯科と生活習慣病対策に関する調査報告書

発行 平成27年2月

編集 歯科と生活習慣病対策検討委員会
発行 北九州市保健福祉局健康推進課 口腔保健支援センター
一般社団法人北九州市歯科医師会

※ 集計・分析については、公立大学法人九州歯科大学口腔機能学講座
歯周病学分野の協力を得て行った。
